

Title	音楽から地域を語れるか？
Author(s)	福田, 宏
Citation	京都大学アカデミックデイ2014 : ポスター/展示 (2014)
Issue Date	2014-09-28
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/196025">http://hdl.handle.net/2433/196025</a>
Right	
Type	Presentation
Textversion	author



京都大学 アカデミックデイ2014 (9月28日・時計台記念館)

# 音楽から地域を語れるか？

地域研究統合情報センター 福田 宏

## ① 各国・各地域特有の音楽

- 日本やロシアの民謡、ラテン音楽、アフリカ音楽 etc.
- チェコと言えば？ → スメタナの《我が祖国》とか  
ドヴォジャークの《新世界》とか...
- では、音楽から地域や国を知ることできる？

## ② スメタナの意外な真実！？

- スメタナはチェコ語が苦手だった（ドイツ語が得意）
- スメタナの音楽はチェコ的だと思われていなかった！  
ドイツかぶれとか、ヴァーグナーの亜流とか...
- あの《モルダウ》の旋律はチェコ以外にも存在した？  
イスラエル国歌  
マザーグースの歌《小さな実のなる木》

## ④ 音楽の化学反応－地域の違いは存在するか？

- 「新世界」におけるドヴォジャーク
- アメリカの音楽創出をチェコ人に依頼？
- 先住民と黒人の音楽はアメリカ的吗？
- 交響曲第9番《新世界より》はアメリカ音楽か？



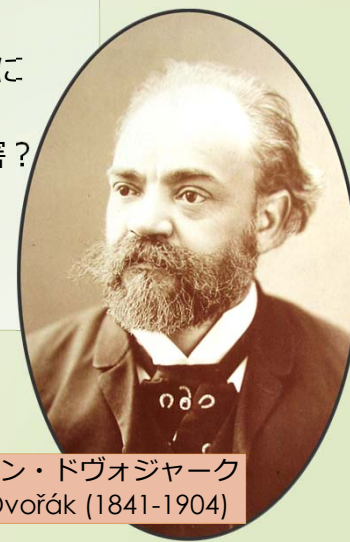
ベドジフ・スメタナ  
Bedřich Smetana (1824-1884)



ハプスブルク帝国  
(1900年頃の中央ヨーロッパ)

## ③ ドヴォジャークの隠れた一面

- ハト好き・鉄道オタクだった
- 貧しい家庭からの立身出世 → アメリカの音楽院院長に
- とは言いつつ、精神的に問題を抱えていた  
一人で街を歩けない... 広場恐怖症とパニック障害？
- 激烈なスメタナ＝ドヴォジャーク論争  
どちらが本物のチェコ音楽なのか？  
進歩と退化、洗練と素朴、交響曲と民謡 etc.



アントニン・ドヴォジャーク  
Antonín Dvořák (1841-1904)